

好酸球性消化管疾患の全国調査 ご協力をお願い

好酸球性消化管疾患(好酸球性胃腸炎、食道炎)は近年増加傾向にあります。特に慢性的な腹痛、栄養障害などが生涯にわたって続く持続型の好酸球性胃腸炎は、生活の質の低下が甚だしく、不登校や離職の原因となっています。また治療としてステロイドの全身投与を長期間必要とすることが多く、副作用が問題となります。これらの患者の有病率と症状、検査所見、治療内容および自然歴を把握するため、今回、厚生労働科学研究費 難治性疾患等政策研究事業「好酸球性消化管疾患、重症持続型の根本治療、多種食物同時除去療法の診療体制構築に関する研究」班(主任研究者 野村伊知郎)では、全国の医療機関にアンケートを郵送し調査をさせて頂くことになりました。

2013年1月から2017年12月の間に、全国の医療機関で、この病気と確定診断された患者さんがいらっしゃった場合、主治医より生年月(日は含まれません)、在住の市区町村、症状、検査所見、治療内容、経過を報告して頂き、研究班にて集計を行います。ただし、研究班にご連絡頂く内容には患者さん個人を特定するような個人情報は一切含まれません。

上記に該当する患者さん(保護者)の方で、この研究にデータが使われるのは困ると思われる方がおられましたら、主治医にお話してください。主治医が研究班にデータを送った後であっても、集計前であれば削除させて頂きます。また、データの削除を申し出られたことによって患者さんとその保護者の方が不利益を受けることは一切ありません。

責任者:

内科 村上英広

好酸球性消化管疾患については、難病情報センターのホームページ
(<http://www.nanbyou.or.jp/entry/3934>)をご参照ください。

平成30年11月研究開始、平成32年3月31日終了予定